

# 令和7年度 印西市民アカデミーだより 第19号

## 講座19：印西の歴史について学ぶ(鎌倉時代～江戸時代)

2月13日（金）、印西市立木下交流の杜歴史資料センター所長を講師に迎え、「印西の歴史について学ぶ（鎌倉時代～江戸時代）」をテーマに、日本の歴史の流れと、その時代の印西を重ねる形で学びました。

講話では、各時代の「日本で起きていたこと」と「印西の出来事」を比較しつつ、クイズも交えて、分かりやすく紹介していただきました。鎌倉から戦国・江戸にかけての政治や文化の変化を確認しながら、印西では仏堂・仏像の造立（鎌倉～戦国）、神楽や獅子舞の奉納（室町～江戸）、木下河岸の水運の発展（江戸）など、地域ならではの歴史が形づくられてきたことを知ることができました。また、「八幡神社の獅子舞」で使われた「獅子頭」や「太鼓」を実際に見ることができたのも貴重な体験でした。一方で、市内の獅子舞など伝統文化の継承が難しくなっている現状があり、文化を守り、次代へつないでいく大切さも改めて感じる時間となりました。



「八幡神社の獅子舞」獅子頭と太鼓

■鎌倉時代・・・源頼朝による鎌倉幕府の成立、御家人制度、御成敗式目の制定、元寇などがあり、文化では『平家物語』や新仏教が広まった時代です。印西では 公領地として「印西條」「埴生西條」と呼ばれ、二代目執権の北条実時が治めており、念仏や座禅の教えが広まり、結縁寺の不動明王像、地藏寺の地藏菩薩、福聚院の阿弥陀三尊像など、後に文化財となる仏像が市内各地で信仰の対象とされていました。

■室町時代・・・南北朝の争いから応仁の乱へと動乱が続き、下剋上の風潮が高まる一方、金閣・銀閣に象徴される北山・東山文化が栄えた時代です。印西では 佐々木氏と千葉氏の対立の後、千葉氏が支配するようになりました。中根の鳥見神社では「鳥見神社の神楽」の奉納が始まり、現在も県指定無形民俗文化財として受け継がれています。



■戦国・安土桃山時代・・・戦乱のなかで天下統一が進み、楽市楽座など経済も発展した時代です。印西では 自然の地形を利用した小林城・笠神城・師戸城などの山城が築かれ、地域の重要な拠点として機能していました。また、小倉・岩戸・角田には、国指定重要文化財である三つの「仏堂(観音堂・薬師堂)」が建立されました。

■江戸時代・・・幕藩体制のもと平和が続き、町人文化が大きく発展した時代です。印西では 幕府直轄の印西牧、木下河岸の水運の繁栄、行徳へつながる木下街道（鮮魚街道）の整備により、物流の拠点として発展しました。さらに、「浦部の神楽」をはじめ、各地区の獅子舞など、市・県指定の民俗文化も数多く受け継がれています。また、次回訪れる予定の松戸市・戸定邸については、徳川家ゆかりの屋敷の一部「使者の間」が、かつて印西（発作の赤松宅）に存在していたことが紹介されました。「使者の間」には、ある“縁起の良い生き物”の姿が彫られているそうです。現地での答え合わせが楽しみです。